

科目名		建築構造Ⅲ			
担当教員		野本 優		実務授業の有無	有
対象学科	建築士専攻・大学併修科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	112
授業概要、目的、授業の進め方	建築士試験は耐震偽装問題を境に益々難易度が高くなり、非常に取得しにくい資格となっている。中でも建築構造は、構造力学という数学を使用する分野も含んでおり、苦手意識を持つ生徒も少なくない。過去問題を中心に授業を進め、かつ、補講を活用することで構造に対する苦手意識を取り除きたい。				
学習目標 (到達目標)	二級建築士学科試験「建築構造」において、21点(25点中)以上の取得を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	2級建築士講座テキスト【建築構造】、同 問題集【建築構造】、同 トレイントレーニング【建築構造】				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	力のつりあい、反力			力の種類、力のつり合い、反力の性質、力のつり合い条件式を理解する。	
2	応力、トラス			応力の種類を把握し、静定ばり、静定ラーメン、トラスの応力算出を理解する。	
3	断面の性質、座屈			断面1次モーメント、断面2次モーメントと断面係数、オイラー式を理解する。	
4	応力度			考え方を理解し、確実に問題を解けるようにする。	
5	荷重・外力、構造計画			構造計算時の荷重の種類や特徴を把握し理解する。建物の安全性確保のために注意すべき事柄を理解する。	
6	地盤、基礎			土の性質並びに地盤の種類と特性を理解する。基礎構造における、基礎の種類の違いと特徴を理解する。	
7	木造			試験において出題率の高い項目となる。木材の性質と木構造の特徴を中心に理解を深め、さらに実務的な側面からの解説も行う。	
8	鉄筋コンクリート造、壁構造			コンクリートを構成する材料や調合、コンクリートと鉄筋の関係を理解する。コンクリートブロック造や壁式コンクリート造についても学習する。	
9	鉄骨造、その他の構造等			鋼材の種類と特徴や部材の接合(溶接、ボルト)を理解する。SRC,PC,PCa造や制振および免震構造、既存建物の耐震診断等の理解を深める。	
10	その他の建築材料			石材や塗料、ガラスなど多岐に渡るが写真等を用いて理解しやすく説明し、問題を解けるようにする。	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	課題	模擬試験	小テスト	1級、2級を問わず、年々難度の増している建築士試験である。4ヶ月間しっかりと集中して授業に取り組み、かならず全員合格を勝ち取ってほしい。	
20 %	%	60 %	20 %		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		住宅に関する調査・設計に15年携わっている。			

科目名		建築施工Ⅲ			
担当教員		仁多見 透	実務授業の有無	有	
対象学科		建築士専攻・大学併修科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築の施工は、建築の技術者としての基本的な理論を理解する必要があることと、2級建築士の学科試験に合格する為の知識として、規定値を暗記する必要があるため、この2点に重点を置き講義をします。特に施工は経験工学と言われる程、実際の現場や作業の流れを視覚から理解をしないと難しい面があるので、施工写真や、図を見せながら、講義をします。また数値の暗記は語呂などを声に出させ、また、ノートに書くことで聴覚と手を動かすことで脳を刺激して記憶の定着を図ります。			
学習目標（到達目標）		二級建築士学科試験「建築施工」において、20点（25点中）以上の取得を目指す。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		2級建築士講座テキスト【学科Ⅳ建築施工】総合資格学院 2級建築士講座問題集【学科Ⅳ建築施工】総合資格学院			2
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	1・1 契約 1・2 施工計画 1・3 管理計画		達成目標：理解度確認テスト(問001-011)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問012-022)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問023-055)の正解率8割以上		
2	2・1 仮設工事 2・2 地盤・土工事・基礎 2・3 鉄筋工事		達成目標：理解度確認テスト(問056-066)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問067-079)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問080-092)の正解率8割以上		
3	2・4 型枠工事 2・5 コンクリート工事 2・6 鉄骨工事		達成目標：理解度確認テスト(問093-102)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問103-123)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問124-145)の正解率8割以上		
4	2・7 コンクリートブロック工事 2・8 ALCパネル工事 2・9 押し出し成形セメント工事		達成目標：理解度確認テスト(問146-153)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問154)の正解率10割 理解度確認テスト(問155・156)の正解率10割		
5	2・10 木工事 2・11 防水工事 2・12 屋根工事		達成目標：理解度確認テスト(問157-187)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問188-194)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問195・198)の正解率10割		
6	2・14 左官工事・タイル・石工事（融合） 2・15 塗装工事		達成目標：理解度確認テスト(問199-209)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問210-220)の正解率8割以上		
7	2・16 建具・ガラス・内装工事（融合） 2・17 改修工事 2・18 設備工事・各部工事融合		達成目標：理解度確認テスト(問221-231)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問232・242)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問243-253)の正解率8割以上		
8	3・1 施工機械・器具 3・2 測量 3・3 積算・見積		達成目標：理解度確認テスト(問254-260)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問261-264)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問265-275)の正解率8割以上		
9	過去問題2巡目および過去の模試問題		学習方法：1・11～3・3に共通 正解率8割をめざし、未達の生徒には補習などで個別指導		
10	直前対策		学習方法：1・11～3・3に共通 正解率9割を目指し、未達の生徒には補習などで個別指導		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
	%	%	模擬試験 90%	小テスト 10%	施工の試験は比較的、過去問の出題割合が多いので、過去問での何でそうなるのかの理論、理屈を理解してから、その規定値を暗記すれば、必ず高得点になります。 毎回、予習・復習を行ってください。
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		仁多見 透：一級建築士、一級建築施工管理技士として16年間建築施工管理に携わる。			

科目名		建築法規Ⅲ				
担当教員		佐藤 静		実務授業の有無	有	
対象学科		建築士専攻・大学併修科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	112
授業概要、目的、授業の進め方		建築基準法及び都市計画法等によって建築物を計画・設計するうえでの様々な法規制がなされ、また、時代の変化に対応して改正がなされている。最新の建築関連法規を座学と演習を通して学ぶ。①建築関連法規に準拠した建築構造・機能などの重要性を学ぶ。②建築計画の最低基準を定めた重要な分野であるとの認識で、法規の制度・規制内容を理解する。③図説講義→課題→振り返り→確認→習得を繰り返すことで、質の高い建築技術を習得する。④また、二級建築士試験合格を目指し、模擬テスト等で実力を養う。				
学習目標 (到達目標)		最新の建築基準関連法規の制度やその規制内容等についての知識を修得し、建築物の設計・工事監理に関する法令・技術基準を修得することで、二級建築士合格、実務技術の修得を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		2級建築士講座テキスト [学科Ⅱ建築法規] 2級建築士問題集 [学科Ⅱ建築法規] 総合資格学院				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	建築基準法 用語の定義 確認申請・建築手続		基準法上の用語の定義を具体例を示し、解説する。また、確認申請等の諸手続さについて、用語とともに理解を深める。			
2	建築基準法 面積・高さ等の算定 一般構造		敷地面積・建築面積・延べ面積・高さ・階数の原則と、計算上の例外規定について正しく算定できるようにする。採光・換気・建築設備について理解する。			
3	建築基準法 耐火・防火 防火地域・準防火地域		用語の定義である耐火や防火から、各種性能の該当条文に辿り着き、正しく読み取る。防火地域・準防火地域では、建築物の規模や用途に応じた構造を理解する。			
4	建築基準法 防火区画 避難施設等/内装制限		防火区画では主に縦穴区画と異種用途区画について、避難施設は条文構成の理解や原則と例外規定について、内装制限は制限を受ける建築物の用途とその仕上げの関連性を学ぶ。			
5	建築基準法 構造計算・構造強度		木造では柱・梁・筋かい等、鉄筋コンクリート造では柱等のかぶり厚さ・鉄筋の接合等、鉄骨造では接合・有効細長比等の出題に対応した知識を身に付ける。			
6	建築基準法 敷地等と道路 用途地域		基準法第3章の適用区域、道路の定義、敷地との関係、道路内の建築制限など、出題傾向に合わせた学習をする。用途地域は別表第2から建築制限を理解する。			
7	建築基準法 建蔽率 容積率		建蔽率は、緩和や適用除外の規定を理解し、建築面積の最高限度を求める。容積率は、前面道路幅員との関係や延べ面積に算入しない部分を把握し計算の手順を身に付ける。			
8	建築基準法 高さ制限・日影規制 雑則・その他の規定		高さ制限は、主に道路高さ・北側高さの基本的な計算問題を手順通りに解けるようにする。雑則や罰則は、該当条文を引けるようになり、融合問題に幅広く対応する。			
9	建築士法		建築士の級別に設計・工事監理できる範囲や業務内容を把握し、実務でも生かせる確実な知識とする。			
10	その他の関係法令		高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律をはじめとし、近年注目される関係法令の概要を学ぶ。			
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
平常点	課題	模擬試験		卒業後、実務において建築物の設計及び工事監理等ができるよう建築基準法・関連法規を十分理解してもらうため、重要項目は繰り返し解説をする。そして二級建築士の合格を目指す。		
10 %	%	90 %	%			
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴		一級建築士・インテリアコーディネーター・福祉住環境コーディネーター1級、住宅設計10年				

科目名		建築計画Ⅲ			
担当教員		野口信彦		実務授業の有無	有
対象学科		建築士専攻・大学併修科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築計画は、一般的に「計画原論(環境工学)」・「計画各論」・「建築設備」に大別される。計画原論は、建築物を取り巻く外部環境としての自然気象や都市気候について、また人体の生理におかかわる室内環境について学ぶ。計画各論は、人間工学的観点からの建築物各部の計画上の留意点及びそれぞれの目的別に計画される建築物についての計画上の諸要素とその具体的検討事項について学ぶ。建築設備は、給排水・衛生・空調、電気設備など建築物を維持管理するのに必要な各設備における具体的な事項を学ぶ。			
学習目標(到達目標)		模擬試験を通して知識を定着させ、二級建築士学科試験「建築計画」において、20点(25点中)以上の取得を目指す。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		2級建築士講座テキスト[学科Ⅰ建築計画] 2級建築士問題集[学科Ⅰ建築計画] 総合資格学院			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	気候・空気熱			温熱感覚の要素・指標、空気線図の読み取りから温度や湿度の変化・結露の発生等を学ぶ。空気汚染の概要と法規制との関係性を理解する。必要換気量・換気回数の計算を学ぶ。	
2	光音色彩			わが国における季節ごとの太陽の動きや日影・採光について理解する。音響は、人間の聴覚の特徴や、吸音・遮音等による心理的な効果等。色彩は照明と関連付けて学ぶ。	
3	空気調和設備			空気調和機の機能や構成、建築物の熱負荷によるゾーニング、代表的な空調方式の特徴を理解する。また、省エネルギーの観点からパッシブソーラー等の技術を学ぶ。	
4	給水設備 排水・衛生設備			給水設備では、飲料水の安全性を確保する手法や基準、給水の方式ごとの特徴を学ぶ。排水衛生設備では、トラップや間接排水、環境対策として排水の再利用等を学ぶ。	
5	電気・照明設備			電気設備や配電方式の特徴、照明の基本計画、各光源の特徴を学ぶ。照明は、色彩計画と関連付けて学ぶ。	
6	環境・省エネルギー			火災発生メカニズム、消火の理論を学び、各種消火設備、火災報知設備及び避難誘導設備を理解する。	
7	住宅建築 商業建築			住宅建築における留意事項、集合住宅の形式による特徴を知る。事務所建築や店舗の用途別留意点を学ぶ。	
8	文化施設 教育施設 医療・福祉施設			公共建築では動線やゾーニングを理解し、法規や設計製図とも関連付けて学ぶ。	
9	各部計画 建築生産 都市計画			建築物の細部の寸法・形状等について、標準的なものを理解し、また高齢者等にも配慮した計画について学ぶ。建築基準法やバリアフリー法で定められる内容を確認する。	
10	建築史			日本建築史・西洋建築史のそれぞれを、古代から遡って移り変わりを理解し、近年に至るまでの代表的な建築物や様式、設計者について理解を深める。	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
取組姿勢	課題	模擬試験	小テスト	近年、建築士試験の「建築計画」では、新傾向や初出題の選択肢が多い傾向がみられ、過去問や例題、または一級の試験問題も使用し、新規出題にも対応できる力を養います。	
%	%	90 %	10 %		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		設計事務所で11年意匠設計に従事			

科目名		就職実務				
担当教員		野口 信彦		実務授業の有無	無	
対象学科		建築士専攻・大学併修科	対象学年	1年	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方		就職活動を円滑に進めるために、必要な手法を学ぶ。志望する企業の内定を獲得するために、計画的な準備と活動を促す。				
学習目標 (到達目標)		就職活動を主体的かつ効率良く行う。内定の獲得。社会人としてのマナーを身に付ける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		SUCCESS、配布資料等				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	就職活動の流れ・応募書類・情報収集について		就職活動の流れ、学校のルールや応募書類について理解する。情報収集の方法や、準備など、今後の見通しを立てる。ポートフォリオの作成について確認。			
2	ビジネスメール (課題1)		ビジネスメールの定型を理解し、就職活動でのメールやり取りを想定してメールを作成、送信する。(件名・宛名・挨拶・書き出し・内容・署名・ファイルの添付)			
3	エントリーシート・自己PR・志望動機 (課題2：自己PR)		記入のポイントを踏まえ、自分のストーリーが見える文章をまとめる。文字数制限に合わせたエントリーシート・自己PR・志望動機を作成する。			
4	面接のポイント		(求職者向け) 入室、挨拶等基本的な面接マナーと、事前準備を確認。			
5	個別フォロー		(求職者向け) それぞれの活動状況合わせ、個別フォローを行う。			
6						
7						
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
取組姿勢	提出課題内容	課題提出状況		就職内定を獲得するため、就職活動を支援すると共に、社会人としてのマナーの重要性を学びます。必要な指導を受けながら、主体的に就職活動を進め、最終目標を達成しましょう。		
20 %	40 %	40 %	%			
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴						